

編集後記

2019年はラグビーワールドカップの日本チームの活躍により非常に盛り上がった。国籍・文化・宗教等が違う15人が勝利のため、チームスローガンの「ONE TEAM(ワンチーム)」で強国を撃破し、この言葉が流行語大賞に選ばれ多くの場所で耳にした。

今年度、第9回東北放射線医療技術学会(東北支部第57回学会)は、大会テーマを『Beyond all Radiversity』～ マルチモダリティの聲 ～で、仙台市(仙台国際センター)で開催された。今回から東北支部の研究班と東北地域放射線技師会企画のソリューションカンファレンスが合体するような形で、医療法改正・働き方改革から救急医療・スキルアップ等、多くのシンポジウムや入門セミナーが開催された。一般研究発表は、117題(雑誌掲載は81題)と盛りだくさんな内容で、後抄録として東北支部雑誌に掲載することができた。執筆していただいた方々にこの場を借りて御礼申し上げます。また、学会大会に参加できなかった会員にも、この雑誌を通して情報提供できれば、幸いである。

東北放射線医療技術学会は、今回で9回目となる。今回の坂本大会長から大会略称を「Tohoku Congress for Radiological Technology」から「TCRT」との提案が行われ了承された。この略称が浸透し学会大会がさらに発展することを望む。

「医師の働き方改革をすすめるためのタスク・シフト/シェアの推進に関する検討会」が厚生労働省で開催されている。その中で、診療放射線技師による放射線部内検査時の静脈路確保等のタスク・シフトが検討されているが、他職種と比較するとシフトできる項目が少ない感じがする。今回の医療法改正に伴う線量の最適化、画像の精度管理、AIを利用した読影補助等の新たなタスクを獲得するためには、エビデンスが重要になってくる。多くのエビデンスを得るためにTCRTでの多くの発表や活発な討論を期待する。

2025年問題まで、あと5年と迫った。多くの対策が検討されていると思うが、実感することはまだまだ少ない。この問題を解決するには日本国内がワンチームになることだと思う。しかし、「ローマは1日にして成らず」である。ラグビー日本代表もワンチームとなるために4年間の苦労と重圧等があったと思う。この5年間でワンチームになるため、我々診療放射線技師も病院の中でいろいろなタスクに挑戦していただきたい。

(S.T)

事務局	公益社団法人 日本放射線技術学会東北支部 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1番1号 東北大学病院 診療技術部放射線部門内
電話	022-717-7418
F A X	022-717-7430
発行人	坂本 博
発行日	令和 2 年 1 月 31 日

